

学習のまとめと表現

南アメリカ州の学習を振り返って整理しよう

教科書対応ページ p.117(参照するページ p.108~115)

②地図を使って確かめよう。



①地図中の にあてはまる地名を書き入れよう。

①	アマゾン川	②	ギアナ高地	③	アマゾン盆地	④	ブラジル高原
⑤	ラプラタ川 (パラナ川)*	⑥	アンデス山脈	*ウルグアイ川とパラナ川が合流した下流をラプラタ川という場合と、上流域の水系を含めてラプラタ川という場合がある。			

②地図中に、主にスペイン語が使われている国々について斜線を引いて示そう。

…解答例は、3ページめを参照

③次の文章の () にあてはまる言葉を書き入れよう。

・赤道周辺は熱帯で、アマゾン川の流域の低地は (セルバ) とよばれる熱帯雨林の地域となっている。その南東部は (サバナ) 気候となっており、ブラジル高原が広がっている。南部は温帯で、ラプラタ川流域には (パンパ) とよばれる草原地帯が広がる。大陸の南端は寒帯で (氷河) も見られる。

③表現しよう。

①【南アメリカの各国の民族構成】 次の国々の民族構成の特色を文章でまとめよう。

〔アルゼンチン、ベネズエラ、ペルー〕 ↓ (解答例)

アルゼンチン→ ヨーロッパ系の人々が大多数を占める。

ベネズエラ→ 混血の人々が人口の3分の2ほどを占め、ヨーロッパ系やアフリカ系の人々がそれに次ぐ。

ペルー→ 混血の人々と先住民で大多数を占める。南アメリカ諸国の中では先住民の割合が高い。

*ペルーのグラフで先住民が45%のもの:先住民の人々の人口が半分ほどを占め、続いて混血の人々が40%ほどとなっている。

②【南アメリカの都市問題】 南アメリカの各国において、都市へ人口が集中する理由を調べてまとめよう。

※(解答例)教科書 p. 111, 113, 115 にある都市の人口増加の記述などを振り返りながら。

(解答例) 植民地時代に移住者に認められていた大土地所有制の名残で、傾斜地などの耕作に適していない土地で小規模に農業を行う農民や、大農園で働く農民は、やがて職を求めて経済活動が盛んな都市に移動するようになった。加えて、生産力を高めるために大規模な資源開発や農業開発が行われてきたが、農民の生活は豊かにならなかったために、こうした人たちも豊かさへの期待を抱いて都市を目指した。

④意見を交換しよう。

*上の「③表現しよう」の②「都市へ人口が集中する理由」をもとに、都市の人口増加で生じている問題点を整理して、どうすれば解決できるのか話し合ってみよう。

※上記の問いの解答を掘り下げながら、p. 115などを参考に話し合わせたい。

(参考) ブラジルでは、経済成長の進む大西洋岸とアマゾン盆地などの内陸部との格差が大きく、内陸部では増える人口を支えるほどの仕事がないため、大都市へ職などを求めて移住する人々が増えている。こうした動きは、南アメリカ各国で共通しており、各国は経済改革を行ってきた。その中でもブラジルでは、オリンピックをきっかけに大都市の開発を進めたが、これらの改革や開発は物価の上昇を招き、貧富の差を拡大させた。人口増加の激しい大都市には、生活基盤の整備が追いつかないスラムとよばれる治安や生活環境の悪い地区が形成され、深刻な問題となっている。…

掲載されている解答は、一つの例です。

自分の解答が正しいか気になった場合は、先生に質問してみましょう。



まっぴんぐま

p.117の「②地図を使って確かめよう」②の解答例

②地図中に、主にスペイン語が使われている国々について斜線しやせんを引いて示そう。



(着色する色は問いません。適宜お選び下さい)